

文化



『八海山の火渡り大祭』

厳しい修行は、水で始まり火で終える

「あっちえくねーがかや?」 「ヤケドしねっぺか?」

火渡りというと、まさに、「火の上を歩く!」ということが、
ついつい、クローズアップされる。

実際、火渡りをしてきた人に、

「熱くないんですか?」 と聞いてみたことがある。

「ぜんぜん熱くないです!」 という答えが返ってきた。

「は???」

中にはびよん、びよんと、いかにも熱そうに小走りで渡る人もみられる。



南魚沼市大崎の八海山尊神社で、

毎年十月二十日に行われる「大火渡り祭」。

熱い炭の上を裸足で歩くこのお祭りは「奇祭」として全国的に有名だ。

普段は静かなこの土地も、祭りには県内外から多くの信者が訪れ、

やがて火渡りの時間が近づくにつれ、その数は数千人にも及びます。

厳かに神事が行われた後、神社の階段に神火が下りてきます。

その火は会場中央に設置された、青々とした杉の枝葉で覆われた
高く積み重ねられた木に点火される。



はじめはモクモクと煙を出しているが、やがて高々と炎を上げ、
勢いよく燃えはじめる。

炎の熱さで観客が後退りするほど・・・。

燃え盛る火の勢いがおさまると、炭を整えて火渡りの路を作り、
塩で清めた後、その上を次々と白装束に身を包んだ信者さんが渡って行きます。

「あっちっち・あっち」と思うかどうかはわからないけど
心を静め、家内安全 無病息災を願いながら、
まだ火がくすぶる真っ赤な炭の上を裸足で渡るのです。
子どもも歩いちゃう。



そもそも、この火渡りという儀式は、山岳信仰の一つとして、
かなりの昔から行われていた。

毎年、八海山の三つの登山口それぞれの場所で、
季節ごとに火渡り祭は開催される。

中でも八海山尊神社のある大崎口で開催されるのが、一番の大祭。
それにしても、すごい習慣が日本にはある!と思っちゃう。

一説によると、火渡りの儀式は、形式や意味合いは違えども
アフリカや北米でも行われているんだとか・・・。

自然界の中に身を投じ、生きている人達。

火の上を歩くと、

病気が治ると信じている国もあるってテレビで見たことある。



私が火渡りで教えてもらったのはこうだ。

「火はすべての煩惱を焼きつくす。さらに、その浄炎を渡る事によって、
心身の災いを払い除く」
なるほどな～。

古くから霊山として崇められてきた『霊峰八海山』は
雄大で崇高でありながらも、間近で見ると恐怖に近い強さを持っている。
存在感たっぷりだ。

悪いものから周囲の人々を守ってくれている様な気さえする。

八海山の麓に住む人々にとっては、なくてはならない山が、八海山だ。



その山への感謝と、これから先の未来へ向けた祈りを込める儀式が、
「火渡り祭」 のようにも思います。

八海山の一年の修行は、大寒の滝行からスタートし、秋の火渡りで終わる。
「水で始まり火で終える」と語り伝えられているのです。